

# クルマエビPRDV保有検査

秋 山 将

## 【目 的】

種苗生産時における疾病の発生による経費増大を防ぐとともに、種苗生産・放流による、疾病の拡散を防ぎ健康な種苗の放流を行うため、PCR法による親エビ及び稚エビの検査を実施した。

## 【方 法】

### 1. 採卵用親エビのPRDV保有検査

種苗生産用に集められたクルマエビより採血を行い、5尾を1検体としてPCR法により検査を行った。

### 2. 種苗生産稚エビのPRDV保有検査

生産回次毎の水槽の一つを抜き取り、P20を目安として採集し2日餌止めしたものを、12尾を1検体として、60尾をPCR法により検査を行った。

## 【結 果】

### 1. 採卵用親エビの検査結果

7月17日から9月1日まで、8回、462尾（96検体）の検査を行った。このうち7月17日に行った11検体のうち1検体より陽性反応が認められた。このため、DNA抽出後のサンプルより再度検査を行った。しかし、陽性反応が認められなかったため陰性とした。その他の検体は陰性であった。

### 2. 放流用稚エビ検査結果

8月16日から9月25日まで、5回、300尾（25検体）の検査を行った。このうち8月16日に行った5検体のうち1検体より陽性反応が認められた。このため、別のサンプルを使用し再度検査を行った。しかし、陽性反応が確認されなかったため陰性とした。その他の検体は陰性であった。

## 【考 察】

採卵が不調のため、昨年度に比べて検査尾数が増加した。また、12年度においては再検査の結果陰性となったものの、陽性反応が認められる検体が現れた。このため、親エビでは1検体2尾、稚エビでは1検体5尾とし、交雑物を減らし検査の精度を上げる必要がある。